

小児用バギー **coton**

取扱説明書

安全にご使用いただくために



- * ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。
- * お子様地使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いします。
- * 日頃の点検を怠ると、思わぬ事故のおそれがあります。

はじめに

この度は、小児用バギー cotton をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

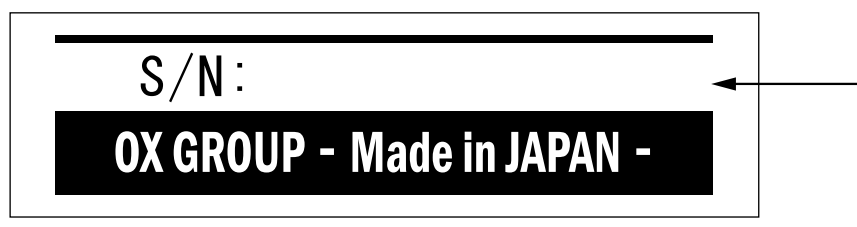
この取扱説明書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能・機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取扱い方法や点検・整備などについて必要な事柄を記載しています。小児用バギーの取扱いを十分ご存じの方も、この製品独自の装備・取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。

なお、本書は紛失しないように大切に保管してください。

＜シリアルナンバー表示位置＞

アフターサービスについてのご相談に対し、的確な判断・処置をするため、シリアルナンバーを正確にご連絡ください。なお、シリアルナンバーはシート下のフレーム右側及び保証書に貼られています。

シリアルナンバー



シリアルナンバーをご記入ください。

*仕様変更や各機種共通仕様などにより、図や内容が一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

< 付属品 >

付属品は次の通りですので、ご確認ください。



本 書



保証書 / 延長保証登録ハガキ

< 各部の名称 >



はじめに	2
シリアルナンバー表示位置	2
付属品	3
各部の名称	3
安全上のご注意	5

総説

基本的な操作方法	12
お手入れについて	12
保管について	12
調整・点検について	12
調整可能な箇所	12

製品を使用する前に

バギーの折りたたみ	14
折りたたむ	14
開く	15
ブレーキの操作	16
ブレーキのかけ方	16
ブレーキの解除	16
ブレーキの調整・点検	17
ブレーキの調整	17
ブレーキの点検	17
バックレスト角度の調整・点検	18
バックレストの角度調節	18
バックレストの点検	18
介助グリップの調整・点検	19
介助グリップの高さ調整	19
介助グリップのクランプ調整	19
介助グリップの点検	19
乗車・安全な介助	20
乗車	20
降車	20
乗車姿勢	20
安全な介助のために	20

各部の調整・点検

フットレストの調整・点検	22
フットレスト高の調整	22
フットレスト角度・前後位置の調節	22
フットレストの点検	22
バックレスト及びレザークラスの調整・点検	23
バックレストレザークラスの取外し	23
バックレストレザークラスの取付け	23
バックレストレザークラスの点検	23
シートレザークラスの着脱(標準)	24
シートレザークラスの張り調整(標準)	24
シートレザークラスの点検(標準)	24
シートレザークラスの着脱(バムシート)	26
シートレザークラスの張り調整(バムシート)	26
シートレザークラスの点検(バムシート)	26
バックレスト高の調節	28
シート奥行の調節	29
キャスターの点検	30
キャスターの点検	30
車輪(リアホイール)の点検	31
車輪(リアホイール)の点検	31
アームレスト及びグラブバーの調整・点検	32
アームレストの高さ調節	32
アームレストの取外し	32
アームレストの取付け	32
アームレストの点検	32
グラブバー(オプション)の高さ調節	33
グラブバー(オプション)の取外し	33
グラブバー(オプション)の取付け	33
グラブバー(オプション)の点検	33
その他の調整・点検	34
レッグベルトの調整・着脱	34
その他の点検	34
日常・定期点検	35
日常点検	35
定期点検	35

その他

coton 仕様諸元	38
お客様ご相談窓口のご案内	39
お客様ご相談窓口	39
アフターサービスの実施	39

安全上のご注意

< 絵表示について >

この取扱説明書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を指しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を指しています。



この表示は、増し締め箇所を示しています。
定期的に、緩みがないか点検・増し締めをしてください。



この表示は、注油場所を示しています。
定期的（1 か月に 1 度が目安）に、注油をしてください。



この表示の示す箇所には、絶対に潤滑油などの油分は塗布してはいけません。
万が一、油分などが付着した場合は、十分に脱脂してください。



バギー以外の目的に使用しない。

転倒など事故のおそれがあります。また、バギーを損傷させるおそれがあります。
この製品は、介助・平坦地専用です。新たに補助動力装置などを取付けると保証の適用は除外されますので、取付けないでください。

壊れたままや異常がある時は使用しない。

転倒など事故のおそれがあります。
故障や異常を見つけた場合にはバギーの使用をやめ、販売店にご相談ください。

改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、バギーを損傷させたりし、転倒など事故のおそれがあります。
改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

調整作業に不安がある（調整方法がわからない）時は調整しない。

部品が破損したり、外れたり、バギーを損傷させて、転倒など事故のおそれがあります。
不安な時は販売店にご相談ください。

不十分な調整状態で使用しない。

身体に無理をかけたり、褥瘡などになるおそれがあります。
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位とバギーの固い部分（フレームなど）が接触しないように調整してください。

高温になる場所（炎天下の自動車内、暖房器具の近くなど）に置かない。

製品が加熱され、火災や火傷のおそれがあります。また、部品を著しく傷めるおそれがあります。

巻き込まれやすい服装は避ける。

車輪（リアホイール）やキャスターなどに巻き込まれ、転倒など事故のおそれがあります。

他の乗り物につかまりながらの移動はしない。

バギーを損傷させたり転倒・転落などのおそれがあります。

バギーを踏み台にしたり、バギーの上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒・転落のおそれがあります。

自動車にバギーを積み込む際は、確実に固定する。

自動車の運転中にバギーが動き、運転に支障をきたしたり、身体・バギーを損傷させるおそれがあります。

フットレストに乗ったり、立ったりしない。

転倒・転落のおそれがあります。また、バギーが損傷します。

シートパイプを握ってバギーを開かない。

フレームとシートパイプの間に指をはさみ、ケガの恐れがあります。



掃除する時などに、タイヤやグリップにワックスなどの油分を付けない。

ワックスなどの油分が付くとタイヤやグリップが滑り、衝突や転倒など事故のおそれがあります。
ワックスなどの油分が付いた時には、十分脱脂してください。

下り坂などではスピードを出さない。

衝突や転倒などの事故をおこしやすく危険です。

急坂などでの使用は避ける。

事故のおそれがあります。

ブレーキはスピード調整に使用しない。

タイヤがロックし、転倒・転落など事故のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。

悪路・荒地には入らない。

転倒など事故のおそれがあります。また、バギーを損傷させるおそれがあります。この製品を
山岳・荒地・砂地・河原・水中・泥地などのオフロードでは使用しないでください。

凹凸の激しいところ（踏切、歩道などの段差や溝）は使用を避ける。

キャスターがはさまったり、バギーを損傷させ、転倒など事故のおそれがあります。

段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。

バギーを損傷させ、転倒など事故のおそれがあります。

ペットを連れて使用しない。

ペットに引きずられ、転倒など事故のおそれがあります。

滑りやすいところは使用を避ける。

降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく、転倒など事故のお
それがあります。

段差の乗越えは手前で一旦停止してから、ゆっくりと乗越える。

速度を落とさず段差を通過すると、転倒・転落のおそれがあります。また、バギーを損傷させる
おそれがあります。

傘をさして使用しない。

レインカバー・レインコート・帽子などを使用してください。レインコートは、ホイールやキャスター
に巻込まれる心配のない物をご使用ください。

ブレーキをかけたまま走行しない。

ブレーキを損傷させ、転倒など事故のおそれがあります。確実に解除してから走行しましょう。

未使用時のバギーに乳幼児を近づけない。

バギーを倒して下敷きになったり、ケガのおそれがあります。



運動機能が低下するもの（アルコールや風邪薬など）を摂取した時は使用しない。
衝突・転倒・転落など事故のおそれがあります。

回転部（タイヤ、キャスターなど）に手を触れない。
手が巻き込まれるおそれがあります。

バギー後方にバッグなどを取付ける場合、中身を入れすぎない。
後方へ転倒するおそれがあります。

エスカレーターでは使用しない。
転倒・転落など事故のおそれがあります。

点検・整備をする。
点検・整備を怠ると、故障や事故などのおそれがあります。
日常の点検・整備、及び1か月に1回、各部の点検・整備をしてください。

走行開始時、また走行中は周囲に気を付ける。
子供などがバギーの回転部・可動部に手などをはさむおそれがあります。

身体の状態に適したクッションを使用する。
姿勢が崩れたり、褥瘡^{じょくそう}になるおそれがあります。

自動車の座席として使用しない。
バギーに乗車したまま、自動車の座席としてバギーを固定して使用すると、転倒・転落やバギーの破損などの事故のおそれがあります。
自動車の座席、またはそれに耐えられる製品に乘換えてください。

移乗時・停車時・未使用時は、ブレーキをかける。
バギーが動き出し、落下・転倒・転落のおそれがあります。
少しの間の停車・駐車でも必ずブレーキをかけてください。

走行時はグリップを握って介助する。
グリップ以外を握って走行させると、転倒・転落や、バギーの損傷などの事故のおそれがあります。

乗車時はバギーの開閉は行わない。
手・足・指・首などをはさみ重大なケガのおそれがあります。

乗車時は目を離さない。
転倒・転落のおそれがあります。常に介助者が目を離さずに見ていてください。

お子様にバギーを操作させない。
衝突・転倒・転落など事故のおそれがあります。



素足で使用しない。

ケガのおそれがあります。
靴下を履き、底のある履き物を履いて使用してください。

屋外に放置しない。

気象変化や気温変化により、製品が著しく劣化します。
必ず屋内に保管してください。

面ファスナーは確実に貼付ける。

固定力が低下して調整状態が変わります。また、A面（オス）が露出していると着衣を傷めるおそれがあります。

面ファスナーに付着した、ほこり・砂・糸くずなどは取除く。

固定力が低下して調整状態が変わります。

安全に操作できる箇所を持ち使用する。

転倒・転落やバギーの破損などの事故のおそれがあります。
介助者に持つ箇所を指定してください

総 説

ここでは、基本的な操作方法と、お手入れや保管方法及び調整・点検について説明しています。

基本的な操作方法

お手入れについて

保管について

調整・点検について

調整可能な箇所



基本的な操作方法

- ・シート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。パームシートをご使用の場合は直接着座できます。
- ・足はフットレストに乗せてください。
- ・介助者はグリップを握ってバギーを走行させてください。
- ・乗降時や駐停車時は、必ずブレーキをかけてください。

お手入れについて

- ・こまめに清掃することをお勧めします。
こまめに清掃することにより、バギーの異常を早期に発見することにもつながります。
- ※有機溶剤を含んだ油汚れ取りは、使用しないでください。塗装面がはがれるおそれがあります。

保管について

- ・必ず屋内で保管してください。
- ・再びご使用の際は、点検・整備をしてください。

調整・点検について

- ・このバギーは各所に調整機構を備えています。お乗りになる方の状態に合わせて各所の調整を行ってください。
- ・最適な姿勢で使用できるように、各部の調整を行ってください。
- ・調整作業に不安がある場合は、ご自分では調整しないで、販売店に依頼してください。
- ・日常の点検・整備を行ってください。
- ・1か月に1回を目安にして、定期点検を行ってください。

調整可能な箇所

- ・このバギーは、次の箇所に調整機構があります。
 - ☐ ブレーキ：効き具合
 - ☐ バックレスト：高さ・角度・レザーの張り
 - ☐ フットレスト：高さ・角度・前後位置
 - ☐ シート：奥行・レザーの張り
 - ☐ アームレスト：高さ・着脱
 - ☐ 介助グリップ：高さ・向き・ロックの効き具合

製品を使用する前に

ここでは、このバギーの基本的な機能について説明しています。ご使用になる前に次の各説明を必ずお読みください。

バギーの折りたたみ

ブレーキの操作

ブレーキの調整・点検

バックレスト角度の調整・点検

介助グリップの調整・点検

乗車・安全な介助

バックレスト角度の
調整・点検 (P.18)

バギーの折りたたみ
(P.14 ~ P.15)

介助グリップの調整・点検
(P.19)

ブレーキの操作
ブレーキの調整・点検
(P.16 ~ P.17)

乗車・安全な介助
(P.20)



バギーの折りたたみ

＜折りたたむ＞【図1-1】【図1-2】【図1-3】

- 1) ブレーキをかける。(P.16)
- 2) グラブバー（オプション）を装着している場合は、グラブバーを取外す。(P.33)
- 3) シート後方のフックを図のように操作し、解除する。【図1-1】
- 4) バックレスト上端中央とシート前端中央に手を添え、ゆっくりたたむ。【図1-2】
- 5) シート下のフックをロックする。【図1-3】

⚠警告

シート下のフックが確実に掛かり、開かないことを確認する。

*バギーが急に開き、事故のおそれがあります。

⚠警告

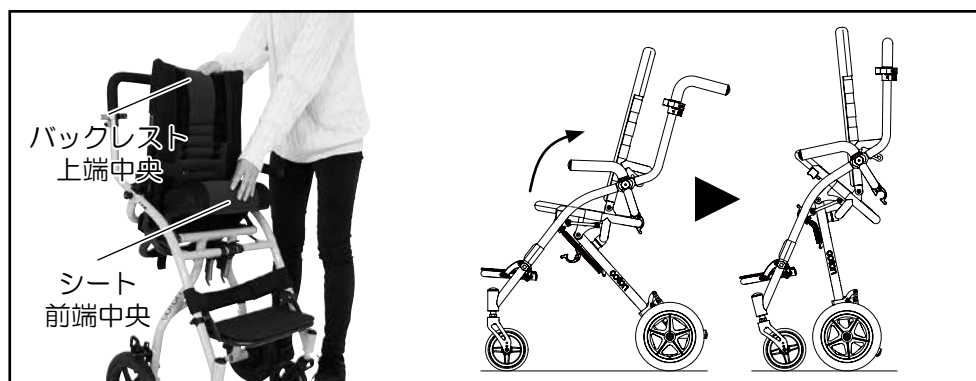
折りたたむときは可動部に手や体を近づけない。

*可動部やフレームに手や指を挟まれ、ケガをするおそれがあります。

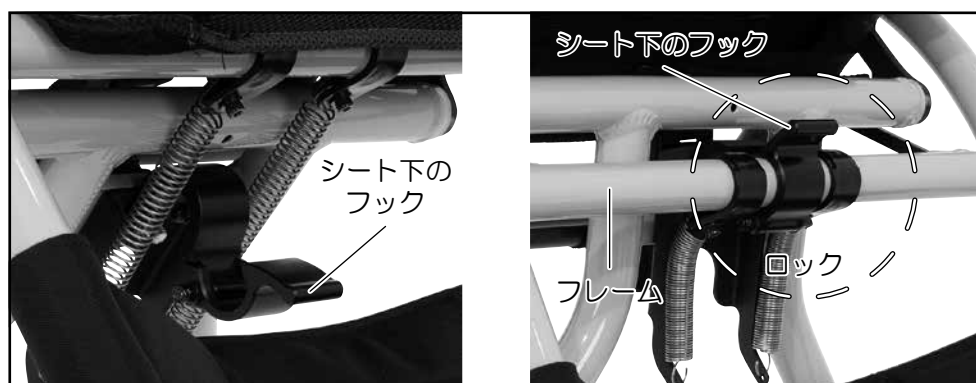
*周囲に人がいないこと、特に乳幼児がいないことを確認してから操作してください。



【図1-1】



【図1-2】



【図1-3】

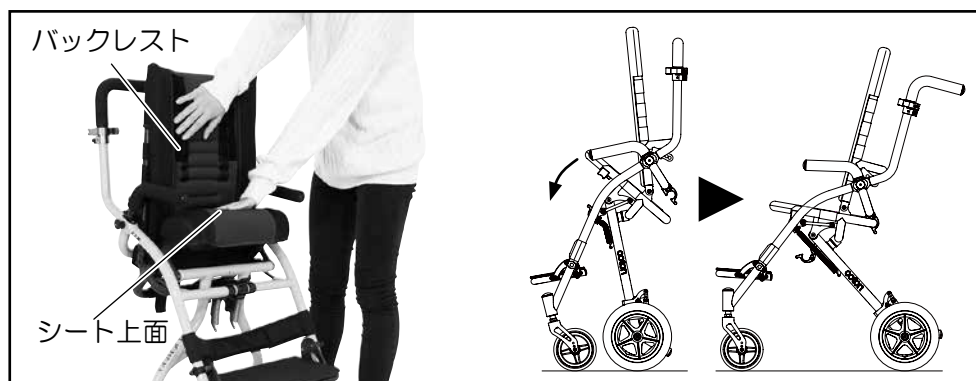
バギーの折りたたみ

＜開く＞【図1-4】【図1-5】【図1-6】

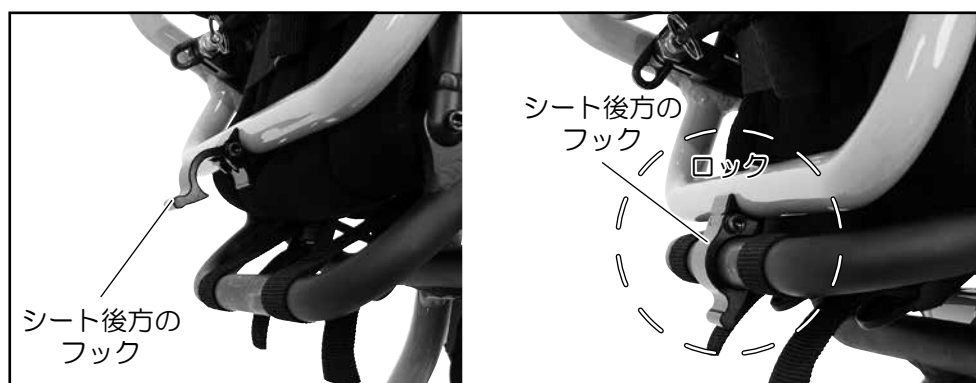
- 1) ブレーキをかける。(P.16)
- 2) グラブバー（オプション）を装着している場合は、グラブバーを取外す。(P.33)
- 3) シート下のフックを図のように操作し、解除する。【図1-4】
- 4) バックレストとシート上面に手を添え、ゆっくり開く。
【図1-5】
- 5) シート後方のフックをロックする。【図1-6】



【図1-4】



【図1-5】



【図1-6】

⚠警告

シート、バックレストをにぎって開かない。

*フレームとの間に手や指をはさみ、ケガをするおそれがあります。

⚠警告

シート後方のフックが確実にロックされていることを確認してから使用する。

*走行中にバギーが折りたたまれ転倒・転落などの事故のおそれがあります。

⚠注意

開くときは可動部に手や体を近づけない。

*可動部やフレームに手や指を挟み、ケガをするおそれがあります。

*周囲に人がいないこと、特に乳幼児がいないことを確認してから操作してください。

⚠注意

開くとき、バックレストと介助グリップの間に手をはさまないようにする。

*手や指を挟み、ケガをするおそれがあります。

ブレーキの操作

＜ブレーキのかけ方＞【図1-7】

- 1) 左右のブレーキペダルを踏み込みロックする。
 - 2) バギーが動かないことを確認する。
- ※ブレーキをかけた状態でバギーが動く場合や、ブレーキが固くロックできない場合は「ブレーキの調整・点検」(P.17)を行ってください。

＜ブレーキの解除＞【図1-8】

- 1) 左右のブレーキペダルを足で引き上げ、解除する。【図1-8】
- 2) ブレーキが完全に解除されたことを確認する。



【図1-7】



【図1-8】

⚠警告

ブレーキをかけた状態でバギーが動かないことを確認する。

*バギーが動き、衝突・転倒・転落など事故のおそれがあります。

*「ブレーキの調整・点検」(P.17)をこまめに行い、ブレーキの利き具合を最適に保ってください。

⚠警告

ブレーキは、スピード調整に使用しない。

*タイヤがロックし、転倒・転落など事故のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。

⚠注意

ブレーキの解除をするときはブレーキペダルを最後まで戻す。

*ブレーキがタイヤと接触し、転倒・転落など事故のおそれがあります。

ブレーキの調整・点検

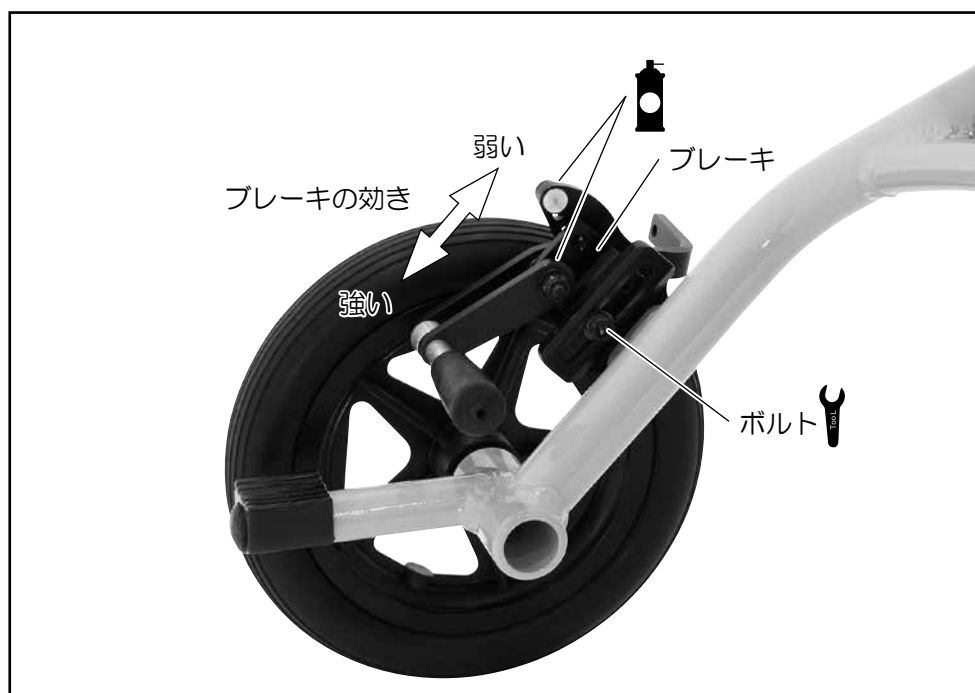
＜ブレーキの調整＞【図1-9】

- 1) ブレーキを解除する。(P.16)
- 2) ボルトを緩める。
- 3) ブレーキの効きが最適になるようにブレーキをスライドさせる。
- 4) 左右同様に調整する。

＜ブレーキの点検＞

毎日乗車前にブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落がないか点検する。

ボルト締付けトルク 10N・m



【図1-9】

⚠警告

注油は、ブレーキとタイヤの接触する箇所には行わない。

*ブレーキが効かず転倒・転落のおそれがあります。油分が付着してしまったときは、十分に脱脂してください。

⚠警告

ブレーキの効きは、必要以上に強くしない。

*ブレーキが破損し、転倒・転落などの事故のおそれがあります。

バックレスト角度の調整・点検

＜バックレストの角度調節＞【図1-10】

- 1) ブレーキをかけ、バギーを開く。(P.16) (P.15)
- 2) シート背面のひもを引き、プランジャーを解除する。
- 3) バックレストを動かし、最適な角度に合わせる。
※介助グリップがバックレストに干渉する場合は、「介助グリップの調整・点検」(P.19)を行ってください。
- 4) シート背面のひもを離してプランジャーのピンをロックに戻し、バックレストが動かないことを確認する。
※プランジャーのピンの先端が角度調節穴にささることでロックします。ロックに戻りにくい場合は、バックレストを前後に動かしてピンの先端を角度調節穴に確実にさしてください。

＜バックレストの点検＞【図1-10】

- ・確実にロックされているか。
※プランジャーのピンがロックに戻りきっていない場合は、バックレストを前後に動かしてピンを戻し、確実にロックしてください。
- ・ガタつきが大きいのか。
※異常がある場合には使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

⚠警告

左右のプランジャーが確実にロックに戻っていることを確認する。

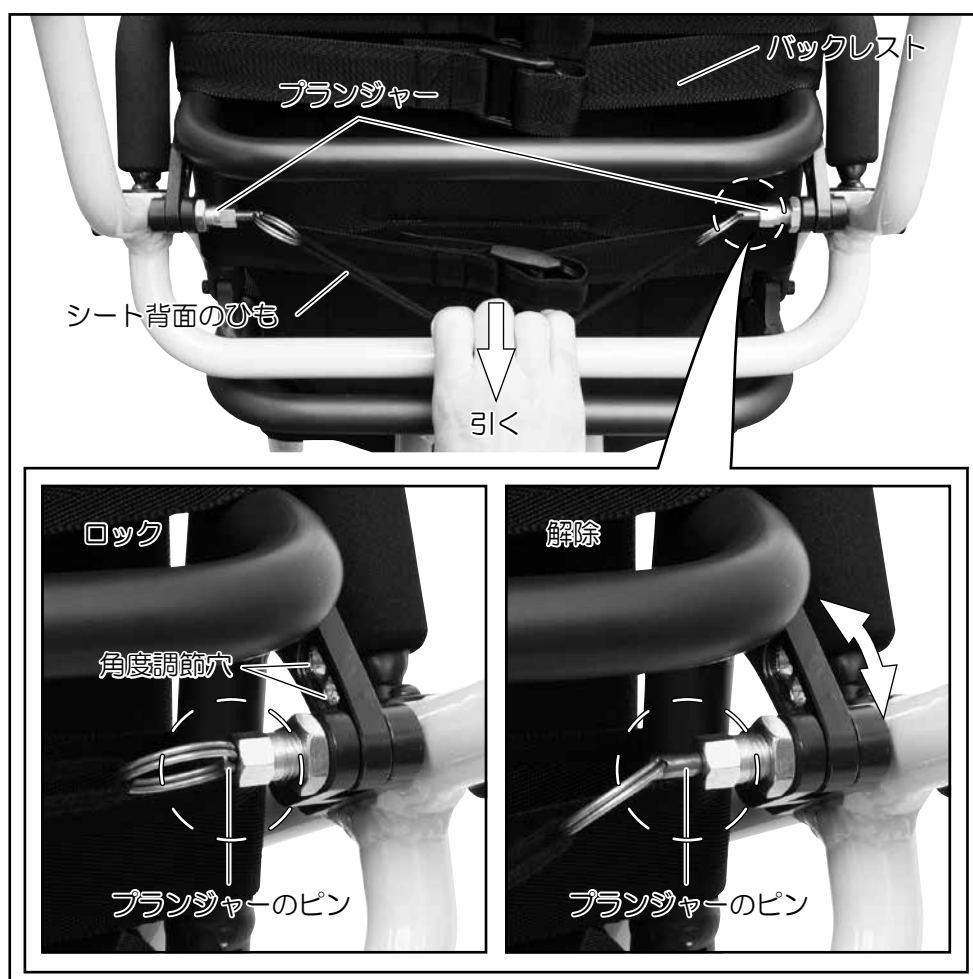
*バックレストが急に動き転倒・転落などの事故のおそれがあります。

⚠警告

可動する箇所の近くに手や体を近づけない。

*手や体の一部をはさみケガをするおそれがあります。

*周囲に人がいないこと、特に乳幼児がいないことを確認してから操作してください。



【図1-10】

介助グリップの調整・点検

＜介助グリップの高さ調整＞【図1-11】

- 1) ブレーキをかけ、バギーを開く。(P.16) (P.15)
 - 2) レバーを操作し介助グリップの固定を解除する。
 - 3) 介助グリップをスライドさせ、最適な位置にする。
 - 4) レバーをロックまで完全に押し込み、介助グリップを固定する。
 - 5) 左右同様に調整する。
 - 6) 介助グリップが確実に固定されているのを確認する。
- ※レバーをロックまで完全に押込んだ状態で介助グリップが動く場合や、レバーが固くて最後まで押込めない場合は、下記＜介助グリップのクランプ調整＞を行ってください。

⚠警告

介助グリップが確実に固定されていることを確認して使用する。

* 介助グリップがズレて、転倒・転落などの事故のおそれがあります。

⚠警告

ロックの際、レバーは最後まで押し込む。

* 介助グリップが固定されていてもレバーが完全に押し込まれていない場合、ロックが急に解除される場合があります。

＜介助グリップのクランプ調整＞【図1-11】

上記＜介助グリップの高さ調整＞を行ってから調整を行ってください。

レバーをロックまで押込んでも介助グリップが動く場合

レバーを押さえながら、ナット（小）を時計回りに締めてください。

レバーが固くロックまで押込めない場合

レバーを押さえながら、ナット（小）を反時計回りに緩めてください。

※ナット（小）の調整は、介助グリップの固定力と、レバーをロックまで押込む固さを確認しながら、1/4 回転くらいを数回に分けて行ってください。

※調整後は、上記＜介助グリップの高さ調整＞を行ってください。

※調整を行っても改善しない場合は、使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

＜介助グリップの点検＞

- ・ 極端に大きいガタつきはないか。
- ・ スポンジの破れや劣化によるパイプの露出がないか。

※異常がある場合は使用を止め、販売店または当社までご相談ください。



【図1-11】

乗車・安全な介助

＜乗車＞

シート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。パームシートをご使用の場合は直接着座できます。

お子様を乗車させる場合、必ず介助する方がお子様を抱き上げて乗車するようにしてください。足はフットレストにお任せください。

歩行や立位が可能なお子様の場合も、フットレストを踏み台にせず、シート部に着座をしてから、フットレストに足を乗せてください。

グラブバー（オプション）をご使用の場合は、グラブバーを外してから乗車してください。

＜降車＞

お子様を降車させる場合、必ず介助する方がお子様を抱き上げて降車するようにしてください。

歩行や立位が可能なお子様の場合も、フットレストを踏み台にしないでください。

グラブバー（オプション）をご使用の場合はグラブバーを外してから降車してください。

＜乗車姿勢＞

最適な姿勢で使用できるように、フットレストの調整、バックレストの調整、シートの調整を行ってください。（「各部の調整・点検」参照）

必要に応じてアクセサリーのベルトなどを使用して、最適な姿勢保持と転落防止を行ってください。

＜安全な介助のために＞【図1-12】

介助する際には、下図の○印以外の箇所は、危険なので握らないでください。

また、誰かに介助を依頼する場合は、保護者の方が介助者に指示してください。

下図に示す×印の箇所は非常に危険です。

▲警告

バギーを持ち上げる時と介助する時は、必ず○印の箇所で行う。

*バギーが急に折りたたまれ、お子様・介助者がケガをするおそれがあります。さらに、乗車中の方の転落など事故のおそれがあります。

*○印以外の箇所を持つと部品が外れたり、破損したりして落下、転落・転倒のおそれがあります。

▲警告

姿勢の保持が難しい方には、ベルトなどを使用し、最適な姿勢の保持と転落の防止をする。

*シート・バックレストだけでは、姿勢の保持が難しい方には、アクセサリーのベルト等を使用してください。



【図1-12】

各部の調整・点検

ここでは、各部の調整・点検について説明しています。

フットレストの調整・点検

バックレスト及びレザー類の調整・点検

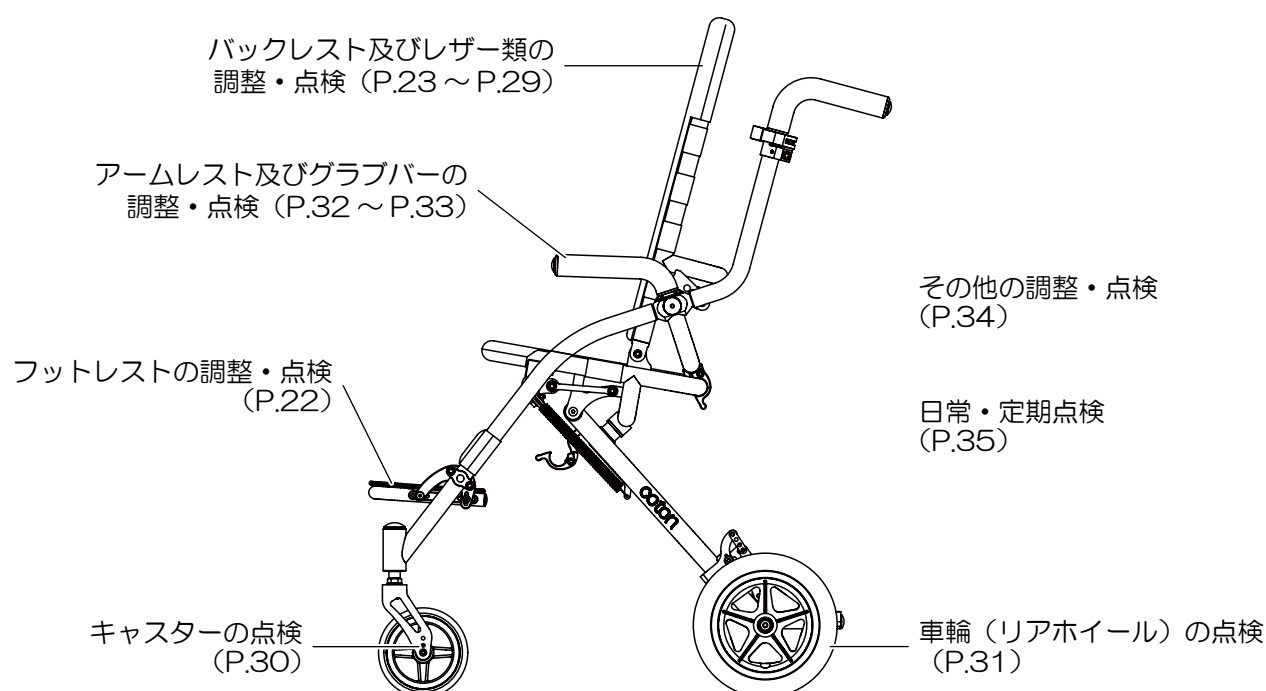
キャスターの点検

車輪（リアホイール）の点検

アームレスト及びグラブバーの調整・点検

その他の調整・点検

日常・定期点検



フットレストの調整・点検

※下記の作業は、ブレーキをかけ（P.16） バギーを開いて（P.15）行ってください。

＜フットレスト高の調整＞【図2-1】

- 1) フットレストとメインフレームを固定している左右各2本の①ボルトを緩める。
- 2) フットレストをスライドさせ、最適な高さにする。
- 3) 2本の①ボルトを交互に繰り返し締める。
※交互に繰り返し締めないと確実に締まりません。
- 4) 左右同様に調整する。
- 5) フットレストが左右が同じ高さになっているか確認する。

⚠警告

必ず取付けボルト 2 本で固定する。

*固定力が低下し、ケガやバギーの破損のおそれがあります。必ずボルト2本で固定するようにしてください。

＜フットレスト角度・前後位置の調節＞【図2-2】

- 1) 左右各2本の②ボルト、ネジを外す。
- 2) 最適な前後位置と角度にする。
- 3) 2本の②ボルト、ネジを交互に繰り返し締める。
※交互に繰り返し締めないと確実に締まりません。
- 4) 左右同様に調節する。

⚠注意

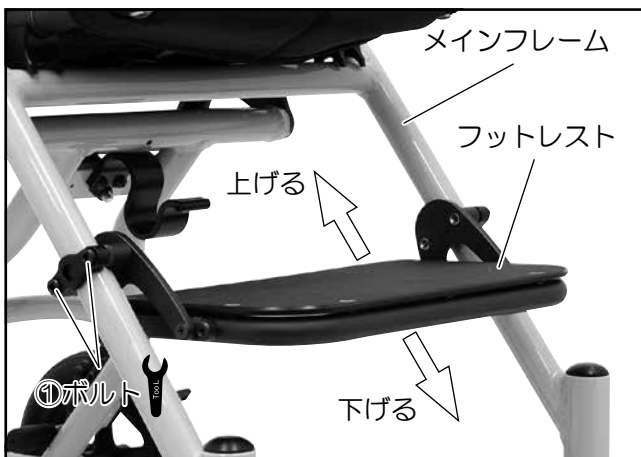
フットレストは左右を同じ高さに調整する。

*バギーが破損するおそれがあります。

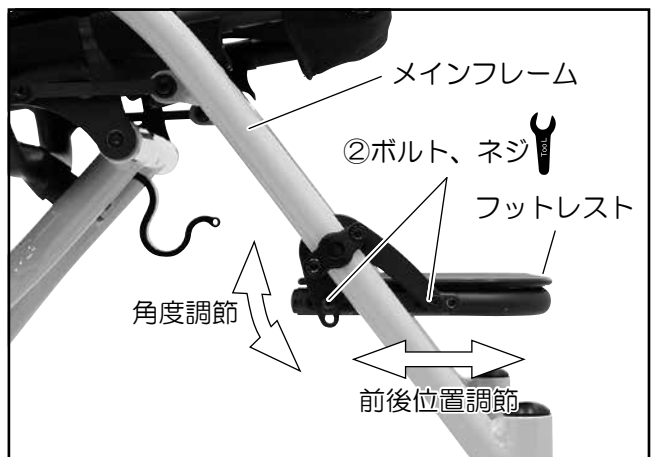
＜フットレストの点検＞

フットレストにひび割れ・破損はないか。
ボルト・ネジの緩み、脱落はないか。

- ①ボルト締め付けトルク 10N・m
②ボルト締め付けトルク 8N・m



【図2-1】



【図2-2】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

※下記の作業は、ブレーキをかけ（P.16） バギーを開いて（P.15）行ってください。

＜バックレストレザーの取外し＞【図2-3】

- 1) バックレストレザー背面の全てのアジャスターから、ベルトを抜き取る。パームシートをご使用の場合は、バックレストレザーからパームシートの面ファスナーをはがす。
- 2) フレームを押さえながら、バックレストレザーを上方向に引き上げて取外す。

⚠警告

ベルトの張り調整は、「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

* バギーが破損するおそれがあります。

* パイプなど硬い部分が身体に接触し、褥瘡などができるおそれがあります。

＜バックレストレザーの取付け＞【図2-3】

- 1) バックレストレザーを、バックレストパイプの上側から被せ取付ける。パームシートをご使用の場合は、パームシートの面ファスナーをバックレストレザー背面へ、最適な位置になるように貼付ける。
- 2) 全てのベルトをバックレストパイプの外側から背面に巻き、アジャスターに通す。
- 3) ベルトの引き代を調整し最適な姿勢になるよう調整を行う。
※ベルトを必要以上に張るとバックレストの破損につながります。
※ベルトの調整後はパイプなど硬い部分が身体に接触しないか、手で押すなどして確認してから使用してください。
※余分なベルトは、アジャスターの内側へ通してください。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

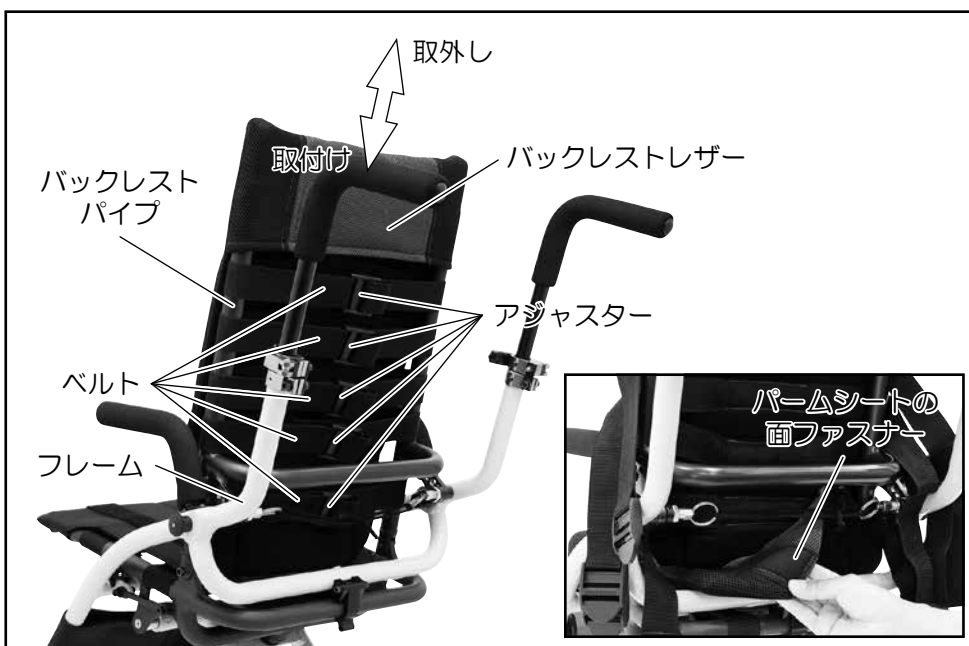
⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

＜バックレストレザーの点検＞

レザーの劣化・破れなどによるフレームなどの露出や、強く当たる部分はないか。



【図2-3】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜シートレザーの着脱（標準）＞【図2-4】

ブレーキをかけてから、下記を行ってください。（P.16）

取外し

- 1) シートレザー裏のネジを外す。
- 2) シートレザーを面ファスナーからはがす。
※フレームのサイズやアジャストパイプの取付位置によりベルトの本数、位置、面ファスナーの有無は異なります。
- 3) シートレザーをアジャストパイプから引き抜く。

取付け

- 1) シートレザーをアジャストパイプに被せる。
- 2) シートレザーが最適な位置になるように面ファスナーへ貼付ける。
- 3) シートレザー裏のネジで固定する。

⚠注意

シートレザーの張り調整は、「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

* バギーが破損するおそれがあります。

* フレームなど硬い部分^{じよくそう}が身体に接触し、褥瘡^{じよくそう}などができるおそれがあります。

＜シートレザーの張り調整（標準）＞【図2-4】

- 1) ブレーキをかける。（P.16）
- 2) シートレザーの裏が見えるようにバギーを寝かせる。
- 3) シートレザー裏の全てのベルトが、最適な張りになるようにアジャスターを調整する。
※調整しにくい場合はバギーを折りたたんで作業してください。（P.14）
※フレームのサイズやアジャストパイプの取付位置によりベルトの本数、位置は異なります。
- 4) シートレザーの位置がずれる場合は上記＜シートレザーの着脱＞を行う。
- 5) バギーを起こす。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

＜シートレザーの点検（標準）＞

シートレザーの緩みはないか。

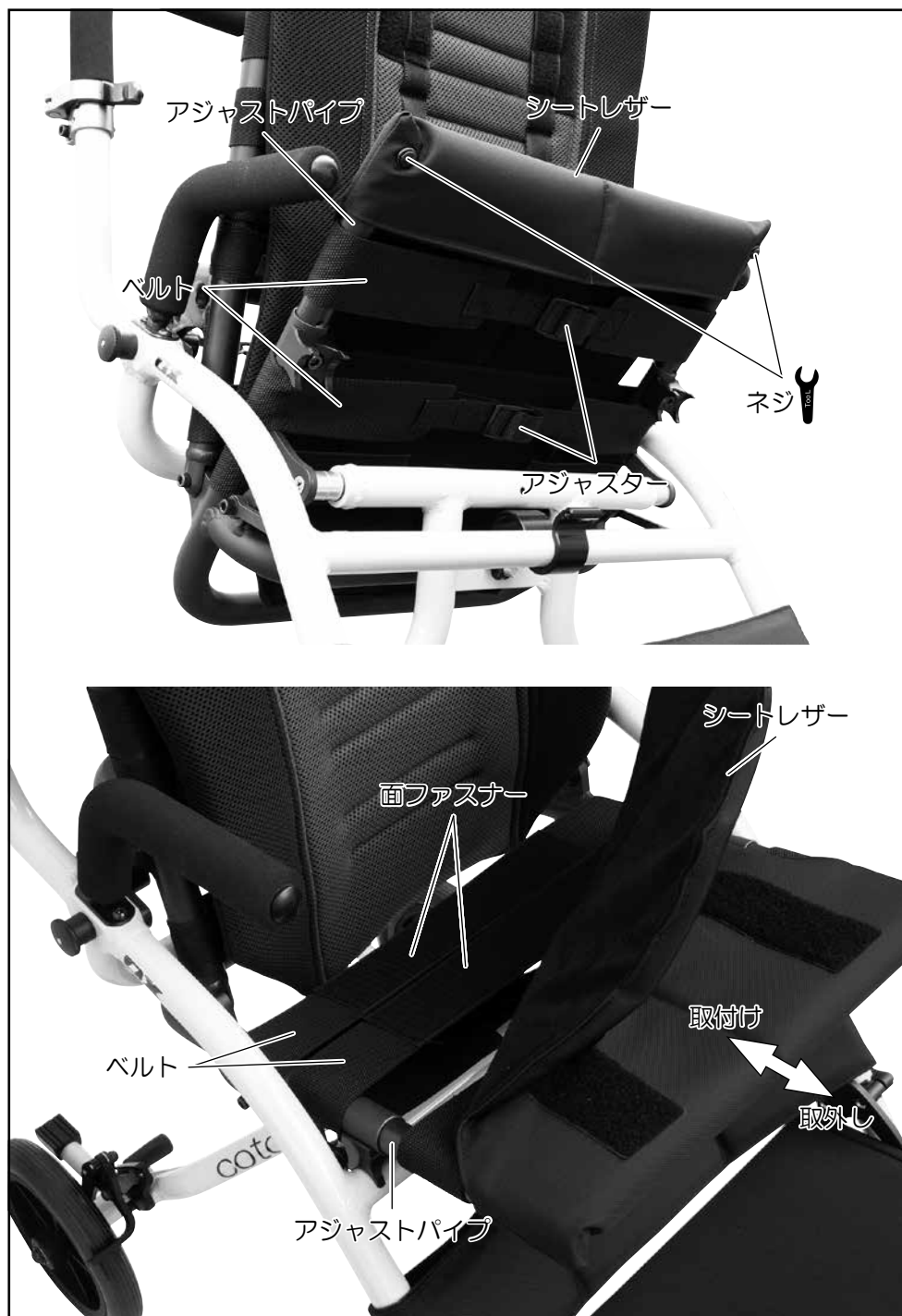
シートレザーの劣化・破損はないか。

※緩んでいる場合は上記＜シートレザーの張り調整（標準）＞を行ってください。張り直しや破損している場合は、交換修理してください。

※異常がある場合には使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

ネジ締め付けトルク 4N・m



【図2-4】

⚠注意

シートレザーの、張り調整は、「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

* バギーが破損するおそれがあります。

* フレームなど硬い部分^{じよくそう}が身体に接触し、褥瘡^{じよくそう}などができるおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜シートレザーの着脱（パームシート）＞【図2-5】

ブレーキをかけてから、下記を行ってください。（P.16）

取外し

- 1) パームシート後方のベルトとインナーベルトをアジャスターから抜き取る。
- 2) バックレストレザー背面からパームシートの面ファスナーをはがし、バックレストレザー前面に引きだす。
- 3) パームシートとベルトが面ファスナーで貼付けられている場合ははがす。
※フレームのサイズやアジャストパイプの取付位置によりベルトの本数、位置、面ファスナーの有無は異なります。
- 4) パームシートをアジャストパイプから外す。

取付け

- 1) パームシートをアジャストパイプに被せる。
- 2) パームシートが最適な位置になるように、パームシートとベルトを面ファスナーで貼付ける。
※フレームのサイズやアジャストパイプの取付位置によりベルトの本数、位置、面ファスナーの有無は異なります。
- 3) パームシートの面ファスナーを、バックレストレザー背面に通し、パームシートが最適な位置になるようにバックレストレザー背面に貼付ける。
- 4) インナーベルトとパームシート後方のベルトをシートパイプの外側からパームシートの裏に巻き、アジャスターに通す。

⚠注意

パームシートの、張り調整は、「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

* バギーが破損するおそれがあります。

* フレームなど硬い部分^{じよくそう}が身体に接触し、褥瘡^{じよくそう}などができるおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

＜シートレザーの張り調整（パームシート）＞【図2-5】

- 1) ブレーキをかける。（P.16）
- 2) パームシートの裏が見えるようにバギーを寝かせる。
- 3) ベルト、パームシート後方のベルト、インナーベルトが、最適な張りになるように面ファスナー、アジャスターを調整する。
※調整しにくい場合はバギーを折りたたんで作業してください。（P.14）
※必要に応じ ＜シートレザーの着脱（パームシート）＞を行ってください。
※フレームのサイズやアジャストパイプの取付位置によりベルトの本数、位置、面ファスナーの有無は異なります。
- 4) バギーを起こす。

＜シートレザーの点検（パームシート）＞

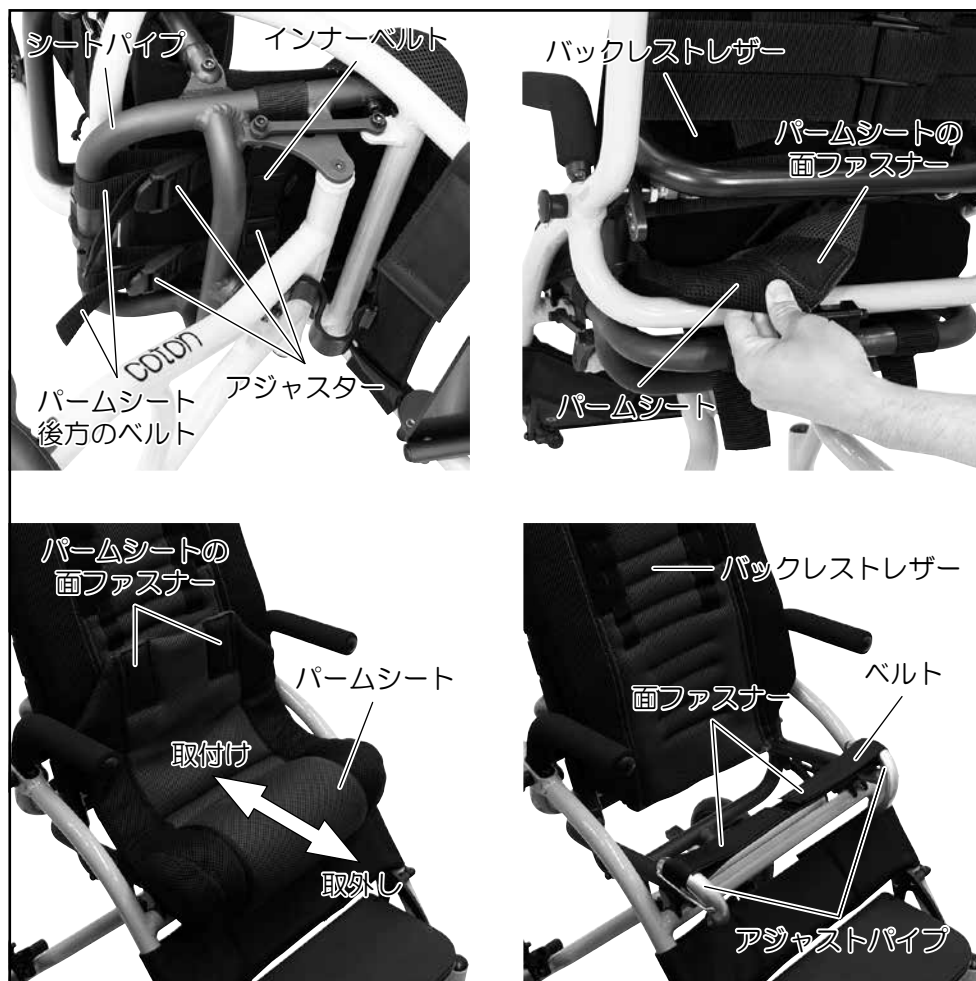
パームシートの緩みはないか。

パームシートの劣化・破損はないか。

※緩んでいる場合は上記＜シートレザーの張り調整（パームシート）＞を行ってください。張り直し、破損している場合は交換修理してください。

※異常がある場合には使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

バックレスト及びレザー類の調整・点検



【図2-5】

⚠注意

パームシートの、張り調整は、「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

* バギーが破損するおそれがあります。

* フレームなど硬い部分が身体に接触し、褥瘡^{じよくそう}などができるおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜バックレスト高の調節＞【図2-6】

- 1) ブレーキをかける。(P.16)
- 2) バギーを開く。(P.15)
- 3) バックレストレザーを外す。(P.23)
- 4) ネジ、ナット、ワッシャーを外す。
- 5) アジャストパイプをスライドさせ、最適な高さに調節する。
- 6) ネジを固定穴と調節穴に通し、ナット、ワッシャーで締付ける。
- 7) 左右同様に調節する。
- 8) バックレストレザーを取付ける。(P.23)

ナット、ネジ締付けトルク 6N・m

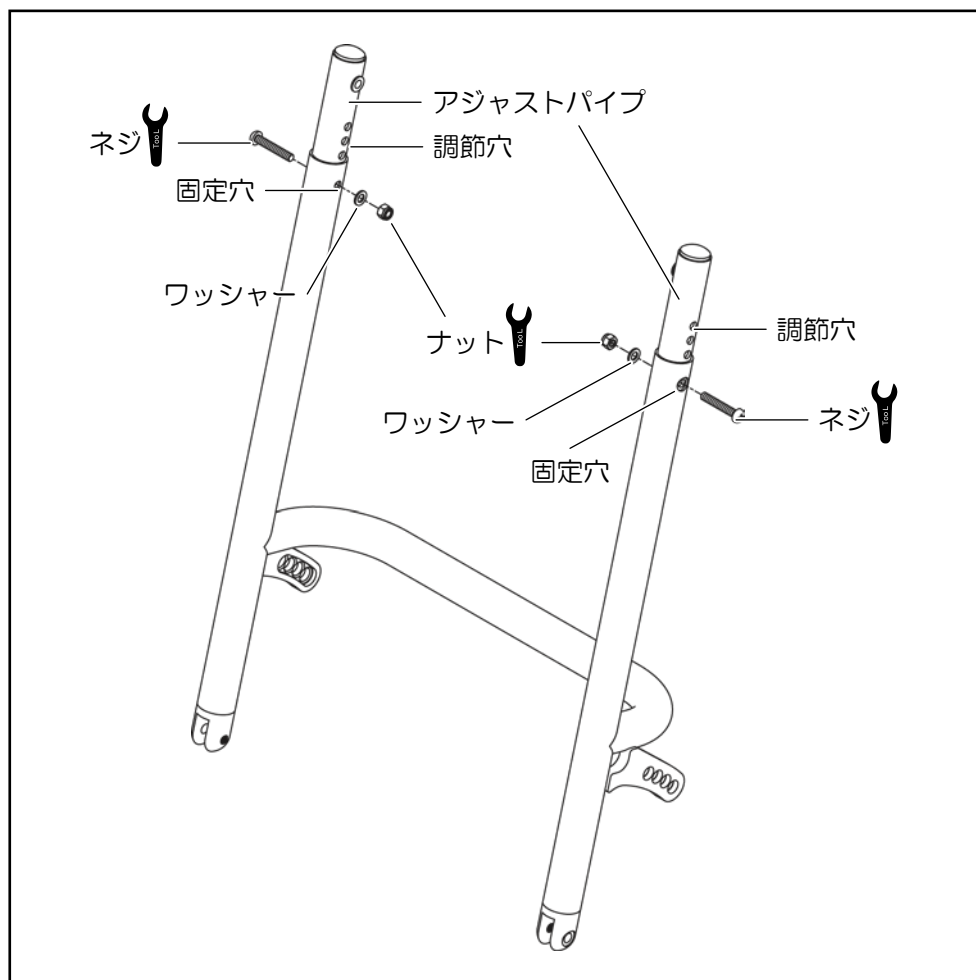
⚠注意

左右のバックレスト高は同じにする。

*バギーが破損するおそれがあります。

*バックレストレザーが斜めになり、最適な張り調整が行えないおそれがあります。

*アジャストパイプの調節穴の位置を左右で合わせてください。



【図2-6】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜シート奥行の調節＞【図2-7】

- 1) ブレーキをかける。(P.16)
- 2) シートレザー、パームシートを取外す。
(P.24～P.27)
- 3) バギーを折りたたむ。(P.14)
- 4) バギーを寝かせ、固定穴、調節穴が見えるようにする。
- 5) ボルト（長）、ボルト（短）、ワッシャーを取外す。
- 6) アジャストパイプの調節穴を、最適な奥行になる固定穴に合わせる。
- 7) ボルト（長）、ボルト（短）、ワッシャーを固定穴に取付け、交互に繰り返し締めめる。
※交互に繰り返し締めないと確実に締まりません。
- 8) 左右同様に調節する。
- 9) バギーを起こす。
- 10) シートレザー、パームシートを取付ける。
(P.24～P.27)

ボルト（長）締付けトルク 8N・m
ボルト（短）締付けトルク 8N・m

※図は、折りたたまれた状態です。



【図2-7】

⚠注意

左右のシート奥行は同じにする。

* バギーが破損するおそれがあります。

* シートレザー、又はパームシートが斜めになり、最適な張り調整が行えないおそれがあります。

* アジャストパイプの調節穴の位置を左右で合わせてください。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

車輪（リアホイール）の点検

※車輪（リアホイール）は破損・脱落などがおこると大変危険です。使用前に必ず点検を行ってください。使用に不安がある場合は使用せず、お問い合わせになった販売店もしくは当社営業部にご連絡ください

＜車輪（リアホイール）の点検＞【図2-9】

ボルトの緩みはないか。

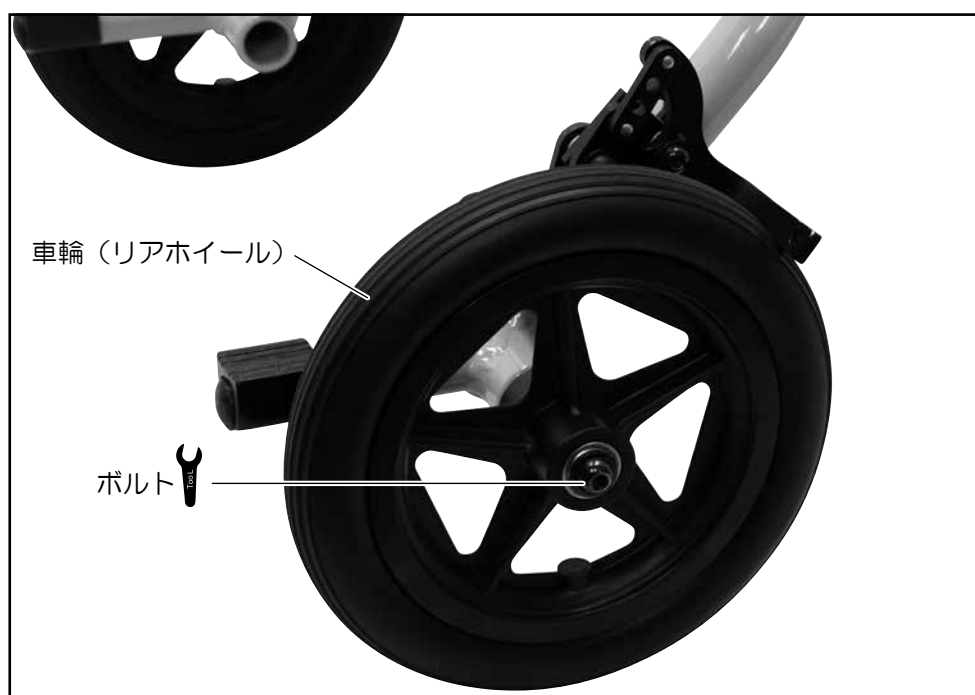
曲がり、亀裂、破損、異音、ガタつき、回転不良はないか。

ゴムは十分に残っているか。

※車輪（リアホイール）は指定の車輪（リアホイール）径以外は使用しないでください。

※異常がある場合には使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

ボルト締付けトルク 15N・m



【図2-9】

⚠警告

指定の車輪（リアホイール）径以外を使用しない。

※直進性、旋回性の低下や、操作に支障をきたすおそれがあります。

※バランスを崩し、転倒や転落など事故のおそれがあります。

⚠警告

車輪（リアホイール）交換または、取り外しを行った後は、必ずブレーキの調整を行う。

※転倒・転落など事故のおそれがあります。

アームレスト及びグラブバーの調整・点検

＜アームレストの高さ調節＞【図2-10】

- 1) プランジャーを引きロックを解除する。
- 2) プランジャーを引いたままアームレストを最適な位置にスライドさせる。
- 3) プランジャーを戻し、ロックする。
- 4) プランジャーがロックに戻り、アームレストが動かないことを確認する。
※プランジャーがロックに戻らない場合は、プランジャーを回転させながらアームレストを上下に動かし、確実にロックに戻ることを確認してください。

▲警告

プランジャーが確実にロックに戻り、アームレストが動かないことを確認する。

*アームレストが急に動き転倒・転落など事故のおそれがあります。

＜アームレストの取外し＞【図2-10】

- 1) プランジャーを引きロックを解除する。
- 2) プランジャーを引いたままアームレストをスライドさせ抜き取る。

＜アームレストの取付け＞【図2-10】

- 1) プランジャーを引いたままアームレストをフレームに挿す。
- 2) アームレストをスライドさせ最適な位置でプランジャーを戻し、ロックする。
- 3) プランジャーがロックに戻り、アームレストが動かないことを確認する。
※プランジャーがロックに戻らない場合は、プランジャーを回転させながらアームレストを上下に動かし、確実にロックに戻ることを確認してください。

＜アームレストの点検＞

極端に大きいガタつきがないか。

スポンジの破れや劣化によるパイプの角などの露出がないか。



【図2-10】

アームレスト及びグラブバーの調整・点検

＜グラブバー（オプション）の高さ調節＞【図2-11】

- 1) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させ、解除のまま固定する。
- 2) グラブバーの左右を同じ高さに維持しながら最適な位置にスライドさせる。
- 3) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させ、ロックに戻す。
- 4) プランジャーがロックに戻り、グラブバーが動かないことを確認する。

※プランジャーがロックに戻らない場合は、プランジャーを回転させながらグラブバーを上下に動かし、確実にロックに戻ることを確認してください。

⚠警告

プランジャーが確実にロックに戻り、グラブバーが動かないことを確認する。

*グラブバーが急に動き転倒・転落など重大な事故のおそれがあります

⚠注意

グラブバーは左右同じ高さにする。

*バギーが破損するおそれがあります。

＜グラブバー（オプション）の取外し＞【図2-11】

- 1) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させ、解除のまま固定する。
- 2) グラブバーの左右を同じ高さに維持しながらスライドさせ抜き取る。
- 3) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させ、ロックに戻す。

＜グラブバー（オプション）の取付け＞【図2-11】

- 1) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させ、解除のまま固定する。
- 2) グラブバーの左右を同じ高さに維持しながらフレームに挿し、最適な位置にスライドさせる。
- 3) 左右のプランジャーを引きながら 30 度回転させロックに戻し、グラブバーが動かないことを確認する。

※プランジャーがロックに戻らない場合は、プランジャーを回転させながらグラブバーを上下に動かし、確実にロックに戻ることを確認してください。

＜グラブバー（オプション）の点検＞

極端に大きいガタつきがないか。

スポンジの破れや劣化によるパイプの角などの露出がないか。



【図2-11】

その他の調整・点検

＜レッグベルトの調整・着脱＞【図2-12】

- 取外し：**レッグベルト裏側にある左右の面ファスナーをはがす。
取付け：最適な位置になるように面ファスナーを貼付ける。
※面ファスナーの貼付けしろの長さは、左右均等にしてください。
※フットボードから足が落ちないように調整してください。



【図2-12】

⚠警告

レッグベルトを緩ませすぎない。

※足がフットボードの後方に落ち、転落・転倒・ケガのおそれがあります。

※レッグベルトの調整後は必ず足が後方に落ちないか確認してください。

⚠警告

レッグベルトを外したまま使用しない。

※足がフットボードの後方に落ち、転落・転倒・ケガのおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。

※固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。

※固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーのA面（オス）が着衣に触れないように取付ける。

※着衣を傷めるおそれがあります。

＜その他の点検＞

1. ヲマークの付いている箇所は1か月に1回点検してください。緩み、脱落、破損、異音がないか点検してください。
2. キャスター、車輪（リアホイール）は毎回乗車する前に点検してください。曲がり、破損、異音、回転不良がないか点検してください。
3. ブレーキは毎回乗車する前に点検してください。ブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落などがないか点検してください。
4. アームレスト、介助グリップは毎回乗車する前に点検してください。ぐらつき、大きなガタつき、ネジ・ナット類の緩み、異音がないか点検してください。

日常・定期点検

＜日常点検＞

乗車前に必ず次の点検を行ってください。

異常があった場合は、各部の調整を行ってください。

調整に不安がある方や、調整しても直らない場合は直ちに使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

また、各部の調整を行った後も必ず次の点検を行ってください。

- ・全体的に極端に大きなガタつきやネジ・ボルトの緩みや脱落、ひび割れや変形はないか。
- ・ブレーキの効き具合は適切か。
- ・レザーは使用者に最適な張り具合になっているか。

＜定期点検＞

1 か月に1 回を目安として、必ず次の点検を行ってください。

異常があった場合は、各部の調整を行ってください。

調整に不安がある方や、調整しても直らない場合は直ちに使用を止め、販売店または当社までご相談ください。

また、各部の調整を行った後も必ず次の点検を行ってください。

- ・全体的に極端に大きなガタつきはないか。
- ・ひび割れや変形している箇所はないか。
- ・ブレーキの動作に問題はないか。
- ・レザーは使用者に最適な張り具合になっているか。
- ・キャスターや車輪（リアホイール）の減り、引っ掛かりや大きなブレなどの回転不良はないか。
- ・ネジ・ボルトの緩み・脱落はないか。
- ・Y マークの付いている箇所に緩みはないか。

MEMO

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is white and occupies the majority of the page below the header.

その他

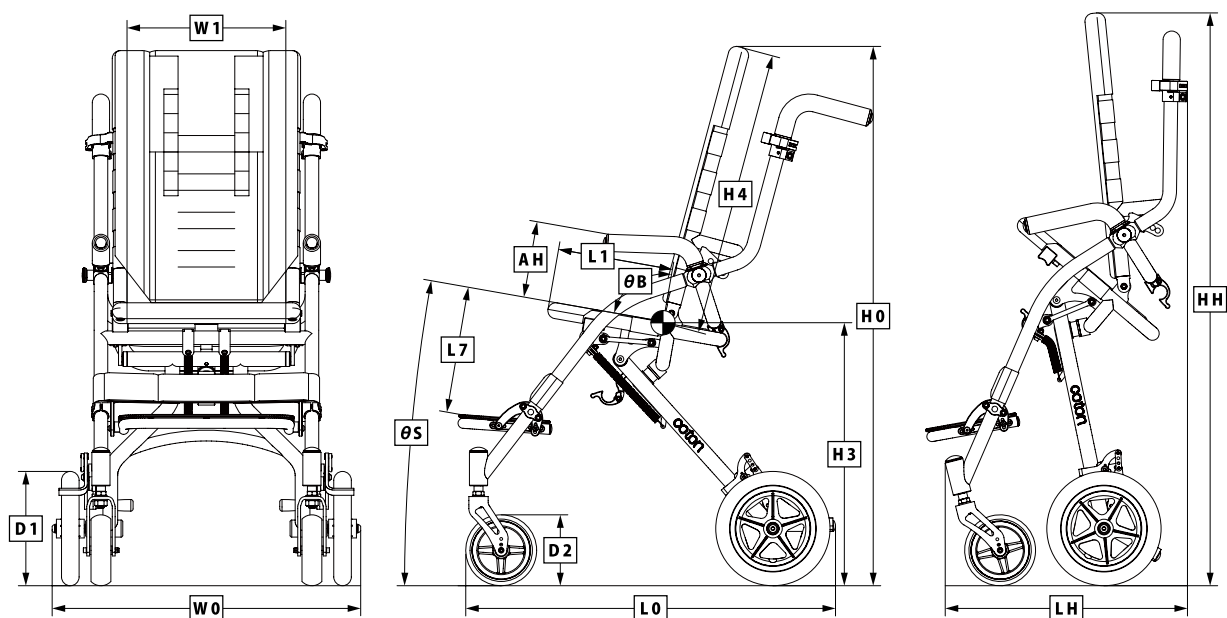
ここでは、各バギーの仕様諸元とお客様
ご相談窓口のご案内を記載しています。

仕様諸元

お客様ご相談窓口のご案内

その他

coton 仕様諸元 (単位: mm)				
		Sサイズ	Mサイズ	
L0	全長	658		
H0	全高	915	965	バックレスト高 最下位置の場合
H3	後座高	470		
θS	座面角度	10°		
W1	シート幅	280	320	
L1	シート奥行	180 ~ 240	240 ~ 300	20 mmピッチで調節可能
W0	全幅	544		
HH	折りたたみ全高	970	1020	バックレスト高 最下位置の場合
LH	折りたたみ全長	435		
H4	バックレスト高	460 ~ 510	510 ~ 560	10 mmピッチで調節可能
θB	リクライニング角度	90° ~ 105°		5° ピッチで調節可能
D1	リアホイール径	200 (8 インチ)		
D2	キャスターホイール径	125 (5 インチ)		
L7	フットレスト長	96 ~ 295 (標準シートの場合) 131 ~ 330 (パームシートの場合)		
AH	アームレスト高	ロー: 136 ~ 172 ミディアム: 181 ~ 217 ハイ: 226 ~ 262		5 段階調節
	重量	8.3kg	8.5kg	



対応身長目安 Sサイズ 85 ~ 105cm
Mサイズ 105 ~ 125cm

● 寸法基準点: バックレストパイプ前面とシートパイプ上面の交点です。
(バックレスト角を 90°とした場合)

お客様ご相談窓口のご案内

《 お客様ご相談窓口 》

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについて、ご質問・ご意見・ご要望などがございましたらご遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーのお問い合わせもご遠慮なくお寄せください。

株式会社オーエックスエンジニアリング

営業部 お客様ご相談窓口

TEL 043-228-0777 FAX 043-228-3334

月曜～金曜 午前9：00～12：00 午後13：00～18：00

《 アフターサービスの実施 》

お買い上げいただきました販売店が、点検・修理をはじめ、アフターサービスのご相談などをお受けいたします。

当社への部品のお問い合わせや、故障箇所をご説明いただくときなどは、次の方法でお問い合わせください。

当社への部品のお問い合わせや、故障箇所をご説明いただくときは本書をご手元に用意していただき cotton の取扱い説明書の〇〇年〇月〇版の〇〇ページの図〇ー〇の〇〇とご説明ください。

例) 17ページの、図1-9の「ボルト」

例) 28ページの、図2-6の「アジャストパイプ」

お問い合わせ先

株式会社 オーエックスエンジニアリング

営業部 お客様ご相談窓口（月曜～金曜 午前9：00～12：00 午後13：00～18：00）

〒265-0043 千葉県千葉市若葉区中田町2186-1

TEL 043-228-0777

FAX 043-228-3334

販売元

株式会社オーエックスエンジニアリング

〒265-0043 千葉県千葉市若葉区中田町 2186-1
<https://www.oxgroup.co.jp/>



不法廃棄はしないでください。